



いとう
伊藤 おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行：伊藤おさむ後援会

〒343-0841 越谷市蒲生東町8番37号
E-mail osamuchan@ae.wakwak.com

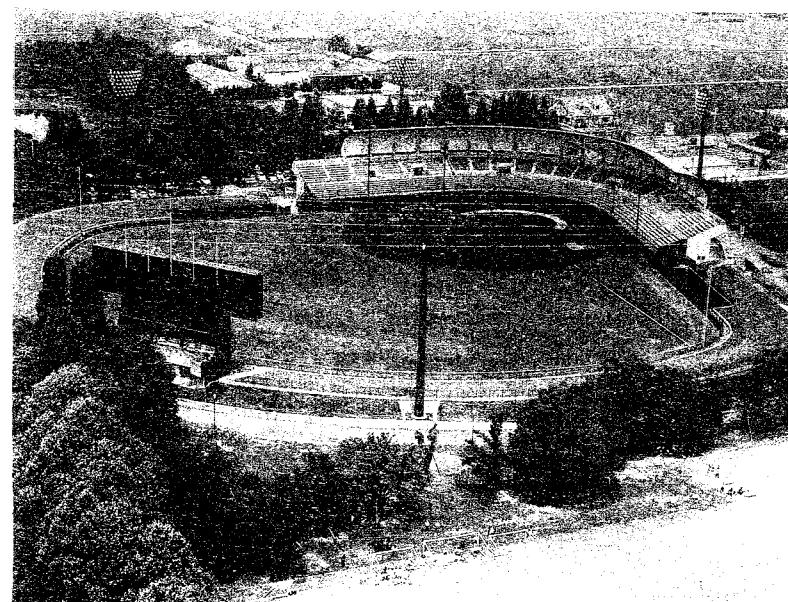
平成19年1月1日発行 No.20

TEL 048-986-9553 FAX 048-989-2397
URL http://www.starosamuchan.com/

越谷市立越谷総合公園野球場は、

昭和48年7月にオープンして以来、多くの市民に親しまれてきましたが、老朽化が進むと共に改修を望む声の高まりから、平成4年度・平成5年度の2カ年にわたり改修工事を進め、県南東部地域の中核都市の野球場としての役割を担う「越谷市民球場」として、平成6年9月にリニューアルオープンしました。

この市民球場では、市野球連盟をはじめ、高校野球やプロ野球などの大会が開催されており、市民の健康・体力づくりの場として、また、高度の技術をもつ競技者の活躍は、観戦する市民に夢や感動を与えてくれることから、市民のスポーツ観戦の場として、市民の皆様に親しまれています。



越谷市民球場



真剣に考え、この教育基本法を遵守する責務があるのでないだろうか。私たち大人は、子供たちの未来の重要な責務があるのではないと明記した。

「個と公の両立」を図る姿勢が明確に打ち出されている。また、教育の原点である家庭教育に対し、「保護者たちは、子の教育について第一義的責任を有する」と盛り込み、家庭教育の重要性をしっかりと明記した。

昨年の十二月、教育の憲法でもある「教育基本法」が改正された。その根拠は、新しい時代に即した教育の理念を定めるものである。昨年一年間を通して見ても、子供たちの「いじめ」や「自殺」、或いは低年齢化した「犯罪」等が連日のごとくテレビやラジオで報道されてきた。それは、我が越谷市においても例外ではない。

このように、子供たちを取り巻く環境が変化してきたことに伴い、教育の目標として現行法の個人の価値の尊重に加え、公共の精神や伝統と文化を尊重し、それを育んできた我

が国の郷土を愛する態度を養うなど

「個と公の両立」を図る姿勢が明確に

打ち出されている。また、教育の原

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！ 「12月定例会報告」

「蒲生・川柳地区に第4老人福祉センター設置を求める！！」

平成18年12月定例市議会が、去る12月1日～12月18日までの18日間にわたり開催され、市長提出議案28件と議員提出議案1件が原案通り可決されました。その主な内容は、市長提出議案では、○職員の地域手当の支給割合を段階的（19年4月1日～21年3月31日まで8%・21年4月1日～23年3月31日まで7%）に引き下げる条例改正○後期高齢者医療の事務を広域にわたり総合的、計画的に処理するため埼玉県後期高齢者医療広域連合の設立○教育センター設置に伴い越谷市教育センター条例制定（19年4月1日から）○中野茂教育長の任期満了（18年12月31日）に伴う越谷市教育委員会委員の任命につき同意を求めるについて（吉田茂氏 19年1月1日から）他24件。議員提出議案では、○公共工事における建設労働者の適正な労働条件確保に関する意見書についての1件が可決しました。

また、12月定例市議会において一般質問を行いましたので詳細をご報告します。

「第四老人福祉センターの設置について」

Q 国の方針では、介護保険制度が介護予防にシフトするなど、いわゆる要介護状態にならないための元気な高齢者への支援が必須になっているなかで、我が越谷市の高齢化率も年々上昇している。将来の財政負担軽減のためにも中・長期的視野にたった投資も必要であり、蒲生・川柳地区に第4老人福祉センターの設置を早急に求めるが。

A 老人福祉センターについては、平成22年度の整備目標値を4カ所とし、整備地区は既存の3つのセンターの配置を考慮し、南部地域を念頭に調整していく。

「越谷南体育館のバス待避場所の変更について」

Q 越谷南体育館を利用されている大勢のスポーツ関係者から、「子どもがバスに轢かれそうだ」、或いは「いつか事故が起きるのではないか」とご指摘をいただきながら、私も自分で現場調査をした結果、早急に対処することが必要ではないかと考えるが。

A 体育館利用者の方が安心して利用できるよう、別の場所の選定をも含め何らかの安全策を講じる必要があると思われるため、今後、詳細については検討していく。

「小・中学校へ通う子ども達に携帯電話は必要か」

Q 子ども達が携帯電話を所持することで、犯罪に巻き込まれたという事件もしばしばニュース等で見るように携帯電話の問題点も考えられるが、小・中学校へ通う子ども達に果たして携帯電話が必要なのか。

A 市内の全小・中学校では、学校生活では携帯電話は必要でないと考え、原則として携帯電話の学校への持参を禁止しているが、保護者からの申し出があり、必要性を学校が認めた場合には持参を許可している。

地域を知るシリーズ No.18

拉致被害者全員を救え！

越谷市内で署名活動を展開！！

昨年の12月23日(土)、私は自由民主党越谷支部並びに自由民主党市民クラブのメンバーと共に、千間台駅・北越谷駅・越谷駅・新越谷駅・蒲生駅それぞれの駅前で拉致被害者全員の早期救出に向けた署名活動と街頭宣伝活動を行いました。

平成14年9月17日、北朝鮮の金正日は拉致を認め日本に対し謝罪をしましたが、その時2つの大きな嘘をつきました。

第1は、「めぐみさんたち8人は死亡した」、第2は「拉致被害者は13人しかいない」です。金正日は、8人について平成16年5月に「再調査」を約束しましたが、その結果として出てきたものがめぐみさんのものと称する偽遺骨などで、死亡診断書、死亡台帳、交通事故記録も全て捏造したものでした。

金正日は、「拉致したのは13人だけ」と主張していますが、日本政府は平成17年4月に田中実さんを拉致被害者として追加認定し、合計16人が「拉致被害者・家族支援法」に基づく拉致被害者と認定しています。この中には金正日が認めていない、曾我ミヨシさん、久米裕さん、田中実さんの3人が含まれています。特定失踪者問題調査会には460人の調査依頼が来ており、調査会はその中の35人については拉致の可能性が高いと判断しており、日本人拉致被害者は全体で約100人にのぼるとしています。

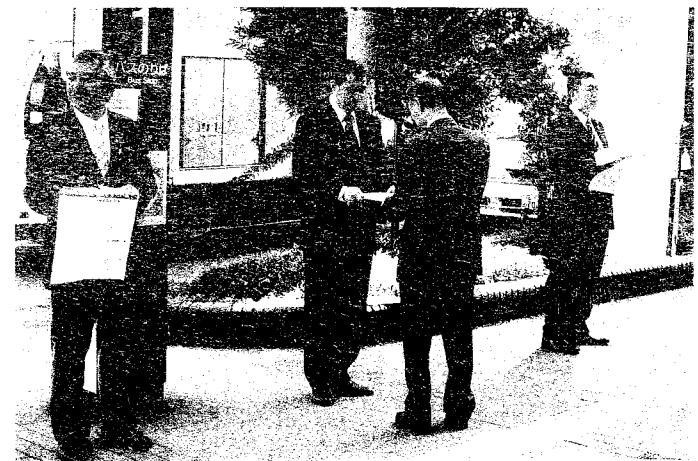
「よど号」犯リーダー田宮高麿は生前、「自分たちは合計20人程度を拉致した」と語っていますし、元工作員の安明進氏は1988年当時、金正日政治軍事大学の複数の教官から、そこで働く日本人教官は約30人と聞いています。この様な事から、曾我ひとみさんのケースのように日本政府が想定していない拉致被害者も多数いるのではないかと考えられます。

北朝鮮は、拉致問題を風化させようと6カ国協議など話し合いの場で取り上げようとは

しませんが、拉致という犯罪を犯した国家が為すべきことは、真実を語り今すぐ拉致被害者全員を返すことが最優先だと考えます。

私たちは、北朝鮮に拉致された方全てが帰国できるまでこの活動を続け、決して風化させることのないよう、地域から訴えていこうと考えています。

今回の署名活動でご協力いただいた472名の方々に改めてお礼を申し上げます。



伊藤 おさむの

～バリアフリー検証～No.20

たたかうPTA会長「石川 雄規」氏！

「ふれあい講演会」で熱く語る！！

昨年の11月10日、中央中学校の体育館で全校生徒と保護者を対象に「ふれあい講演会」が開催されました。講師を務めたのは、バトラーツ代表の「石川雄規」氏。

石川さんは、プロレスラーとしてリングに立つ以外に、居酒屋を経営するなど精力的に活動する実業家であり、二児の父として現在蒲生小学校のPTA会長も務めています。また、波乱万丈の人生経験を活かし、あらゆる教育現場で子供たちに「夢」を熱く語り「子供たちの心のバリアー」を解き放つ講演活動も行っています。

今回は、そんな石川さんの講演から感動した部分を紹介します。

生きるって何だろうと考えた時、「心」ってどこにあるのだろうか?「夢」を持てというが、一体何處にあるのだろうか?「勇気」も「努力」も「情熱」もそうだが、何處にあるのだろうか?共通することは、全て形がないこと。そして、これらは全て自分で手に入れるものだということ。私が中学生のときには、誰もそんなことは言ってくれなかった。「夢なんて叶うわけがない」とか「現実は違う」など、そんなことばかり言われた。そんな時、テレビで偶然「アントニオ猪木」さんを知り、この人と逢いたいと痛感した。どうすれば「猪木」と逢えるのだろうかと考えた結果、この人と同じ土俵に上がれば必ず逢えると思い、それが私の「夢」になった。しかし、廻りの大人は皆「そんなの無理だ」と口を揃えて言い私の「夢」の前に立ちはだかった。けれど、その時の怒りや悔しさが逆にやる気を起こさせた。大学を卒業後、プロレスの神様「カール・ゴッチ」氏に逢いにフロリダへ行きマレンコ道場で修業を積み、帰国後、「藤原喜明」氏率いる「藤原組」に入団した。その後、「藤原組」の後楽園ホールでの興行に参加したとき、夢だったアントニオ猪木さんと会うことが出来た。そればかりか、同じリングの上で戦ったのだ。このとき私の「夢」が叶った瞬間だった。感動した。

今、君たちは大人に逆らいたい時期でもある。しかし、タバコを吸ってかつこいいと思うな。窓ガラスを割っても喜ぶのはガラス屋さんだけだ。そんなことで世の中変わるものではない。君たちは「夢」を叶えるために生まれてきたのだ。同時に世の中を変えるために生まれてきたのだ。自分の力で、自分を信じて世の中を変えていって欲しい。

そして、生きる意味を考えて欲しい。

今回の講演は、私のスローガンでもある「子供たちに夢を！」と重なる部分があり、とても共感した内容でした。



中央中学校校長室にて